第2次さぬき市総合計画後期基本計画実施計画／事務事業評価調書

担当課	市民病院経営企画課

事業名	病院事業会計①（医療体制の充実関係）

施策体系	基本目標	基本施策	主要施策
	Ⅲ.健全な心身と思いやりを育むまち	19 地域医療の充実	(1)市民病院を核とした医療体制の充実

事業の内容（P）

事業概要	6事業（救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療、新興感染症拡大時における医療）及び在宅医療に取り組むとともに、5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）に対する安定した医療提供に努める。	対象	地域住民
		手段	現診療体制の維持
		目的	安定した医療提供

会計	0	病院事業会計	款		項		目	

事業費

年度		財源内訳(千円) 国県支出金	地方債	その他	一般財源	事業費計(千円)
R5	計画額	1,695	215,300	4,993,736	540,342	5,751,073
	当初予算額	1,695	215,300	4,993,736	540,342	5,751,073
	決算額	202,695	214,000	4,335,635	533,320	5,285,650

具体的取組内容

計画	・病院群輪番制当番医の実施（年間184日） ・大川地区小児夜間急病診察室の実施（年間366日） ・地域包括ケア病棟の有効利用
実績	・病院群輪番制当番医の実施：年間184日 ・大川地区小児夜間急病診察室の実施：年間366日 ・地域包括ケア病棟の稼働率83.6%

年度		財源内訳(千円) 国県支出金	地方債	その他	一般財源	事業費計(千円)
R6	計画額	1,695	65,000	5,018,479	527,661	5,612,835
	当初予算額	1,695	218,900	5,097,202	528,328	5,846,125
	決算額	2,778	114,300	4,799,028	527,153	5,443,259

具体的取組内容

計画	・病院群輪番制当番医の実施（年間182日） ・大川地区小児夜間急病診察室の実施（年間365日） ・地域包括ケア病棟の有効利用
実績	・病院群輪番制当番医の実施：年間202日 ・大川地区小児夜間急病診察室の実施：年間365日 ・地域包括ケア病棟の稼働率87.2%

年度		財源内訳(千円) 国県支出金	地方債	その他	一般財源	事業費計(千円)
R7	計画額	1,695	65,000	5,100,132	458,078	5,624,905
	当初予算額	1,622	496,300	5,351,421	499,158	6,348,501
	決算額	50,621	371,800	4,685,269	505,197	5,612,887

具体的取組内容

計画	・病院群輪番制当番医の実施（年間182日） ・大川地区小児夜間急病診察室の実施（年間365日） ・地域包括ケア病棟の有効利用
実績	・病院群輪番制当番医の実施：年間203日 ・大川地区小児夜間急病診察室の実施：年間365日 ・地域包括ケア病棟の稼働率88.7%

年度		財源内訳(千円) 国県支出金	地方債	その他	一般財源	事業費計(千円)
R8	計画額	1,695	65,000	5,101,796	466,332	5,634,823
	当初予算額	1,622	845,500	4,973,024	710,246	6,530,392
	決算額					0

具体的取組内容

計画	・病院群輪番制当番医の実施（年間183日） ・大川地区小児夜間急病診察室の実施（年間365日） ・地域包括ケア病棟の有効利用
実績	

上段:計画値　下段:実績値

指標データ(D)		総合計画目標指標	指標種別	単位	R5	R6	R7	R8
	1	入院患者数	成果	人	51,240	51,100	51,100	51,100
					38,864	41,318	44,663	
	2	入院患者率(市民)	成果	%	72.2	72.2	72.2	72.2
					70.2	69.9	68.6	
	3	外来患者数	成果	人	117,855	117,855	117,370	116,885
					110,577	109,529	105,596	
	4	外来患者率(市民)	成果	%	70.5	70.5	70.5	70.5
					69.8	69.2	70.3	
	5	患者紹介率	成果	%	26.6	26.6	26.6	26.6
					26.6	27.7	33.2	
		総合計画目標指標以外の指標 (上段:指標名　下段:測定方法及び設定の考え方)	指標種別	単位	R5	R6	R7	R8
	1	さぬき市及び東かがわ市における病院群輪番制当番医実施日数	活動	日	184	182	182	183
		休日・時間外における広域行政からの救急患者の受入体制を整備した日数			184	202	203	
	2	小児夜間急病診察室診療日数	活動	日	366	365	365	365
		小児を対象とした時間外診療の実施日数			366	365	365	
	3	救急患者応需率	成果	%	80.0	80.0	80.0	80.0
		広域行政から救急搬送の受入要請があった際の応需率			56.2	58.4	66.2	
	4	小児夜間急病診察室取扱患者数	成果	人	2,000	2,000	2,000	2,000
		小児夜間急病診察室で診察を行った患者数			1,032	857	679	

事業の評価	評価基準		着眼点	評価		総合点
	必要性	①事業目的の妥当性	地域や市民にとって役立つ事業内容となっているか。	○	4	32
		②行政関与の必要性	民間に委ねることなく行政が関与する必要があるか。	○	4	
	有効性	③事業内容の妥当性	地域や市民の中に意識・行動・利便性など何らかの変化を生み出せているか。	○	4	
		④政策効果の有効性	地域や市民の中に生まれた変化が当事者だけでなく周りの地域や市民にも影響を与えているか。	○	4	
	効率性	⑤事業経費の妥当性	投入した事業費に見合う成果が得られているか。	○	4	
		⑥政策効果の効率性	政策効果を高めるために部署や組織にとらわれない政策・組織間連携を試みているか。	○	4	
	公平性	⑦受益・費用負担の妥当性	事業が影響を与える地域や市民の受益・費用負担を適切に想定できているか。	○	4	
		⑧受益者負担の公平性	事業から生じた利益・費用は関係者間で公平に分配・負担されているか。	○	4	

改善				
	改善の必要性	「公平性」の観点から改善が必要	今後の方向性	継続
	担当者意見	評価理由 地域住民が安心して生活できるよう、大川医療圏域における病院群輪番制の当番病院を1年のうち203日(半数以上)を担当するとともに、大川地区小児夜間急病診察室を365日毎日開室し、救急医療を提供している。		
		解決すべき課題と改善策 人口減少による患者数の減少のなか、入院患者数は増加するものとなった。 また、救急患者の受入れ件数は、増加傾向にあり、令和6年度から継続して日中の救急患者の応需率を上げるべく、救急体制の見直しを実施してきた。 それに伴い、救急応需率が右肩上がりとなる結果となった。今後も一層の救急医療提供体制の拡充が求められるが、これに対応した体制の強化が急務である。		
	所属長意見	事業の位置付けを踏まえた総括 救急医療提供体制の充実は、地域住民の医療ニーズのうち高いものの一つであり、安心した日々を過ごすためには不可欠なものと認識する。限られた医療資源を最大限に活用し、更なる提供体制の充実を図れるよう努めていきたいと考える。		

第2次さぬき市総合計画後期基本計画実施計画／事務事業評価調書

担当課	市民病院経営企画課

事業名	病院事業会計②（地域医療連携関係）

施策体系	基本目標	基本施策	主要施策
	Ⅲ.健全な心身と思いやりを育むまち	19 地域医療の充実	(2)地域医療の連携推進

事業の内容（P　）

事業概要：地域医療の連携推進を図るため、近隣の開業医等との協議会の開催や総合支援室が窓口となって、情報交換を定期的かつ継続的に実施するとともに、行政をはじめとした福祉関係機関同士との連携強化により、地域包括ケアシステムの構築を目指す。　※事業費再掲

対象：近隣の開業医、行政をはじめとした福祉関係機関等
手段：協議会の開催等
目的：地域包括ケアシステムの構築

会計 0 病院事業会計　款　　項　　目

事業費

年度		財源内訳(千円) 国県支出金	地方債	その他	一般財源	事業費計(千円)
R5	計画額	1,695	215,300	4,993,736	540,342	5,751,073
	当初予算額	1,695	215,300	4,993,736	540,342	5,751,073
	決算額	202,695	214,000	4,335,635	533,320	5,285,650

R5 具体的取組内容

計画：・糖尿病診療を考える会の開催
・総合支援室が窓口となり、外部の関係機関との連携を強化

実績：・糖尿病診療を考える会
開催回数：0回、参加人数：0人

R6	計画額	1,695	65,000	5,018,479	527,661	5,612,835
	当初予算額	1,695	218,900	5,097,202	528,328	5,846,125
	決算額	2,778	114,300	4,799,028	527,153	5,443,259

R6 具体的取組内容

計画：・糖尿病診療を考える会の開催
・総合支援室が窓口となり、外部の関係機関との連携を強化

実績：・糖尿病診療を考える会　開催回数：0回
・表敬訪問（各種関連医療機関）　29施設(49回)
・近隣施設との情報交換会　20施設(63回)
（さぬき市・東かがわ市・三木町の施設と開催し、入院時のスムーズな対応へと繋げた。）

R7	計画額	1,695	65,000	5,100,132	458,078	5,624,905
	当初予算額	1,622	496,300	5,351,421	499,158	6,348,501
	決算額	50,621	371,800	4,685,269	505,197	5,612,887

R7 具体的取組内容

計画：・表敬訪問の実施
・総合支援室が窓口となり、外部の関係機関との連携を強化

実績：・糖尿病診療を考える会　開催回数：0回
・表敬訪問（各種関連医療機関）　30施設(32回)
・近隣施設との情報交換会　22施設(45回)
（さぬき市・東かがわ市・三木町の施設と開催し、入院時のスムーズな対応へと繋げた。）

R8	計画額	1,695	65,000	5,101,796	466,332	5,634,823
	当初予算額	1,622	845,500	4,973,024	710,246	6,530,392
	決算額					0

R8 具体的取組内容

計画：・表敬訪問の実施
・総合支援室が窓口となり、外部の関係機関との連携を強化

実績：

上段:計画値　下段:実績値

指標データ(D)		総合計画目標指標	指標種別	単位	R5	R6	R7	R8
	1	入院患者数	成果	人	51,240	51,100	51,100	51,100
					38,864	41,318	44,663	
	2	入院患者率(市民)	成果	%	72.2	72.2	72.2	72.2
					70.2	69.9	68.6	
	3	外来患者数	成果	人	117,855	117,855	117,370	116,885
					110,577	109,529	105,596	
	4	外来患者率(市民)	成果	%	70.5	70.5	70.5	70.5
					69.8	69.2	70.3	
	5	患者紹介率	成果	%	26.6	26.6	26.6	26.6
					26.6	27.7	33.2	
		総合計画目標指標以外の指標 (上段:指標名　下段:測定方法及び設定の考え方)	指標種別	単位	R5	R6	R7	R8
	1	糖尿病診療を考える会開催回数	活動	日	6	6	6	6
		さぬき市民病院が主催する医療勉強会の開催回数			0	0	0	
	2	糖尿病診療を考える会延参加人数	成果	人	450	450	450	450
		さぬき市民病院が主催する医療勉強会の実施に伴って参加した延人数			0	0	0	

事業の評価	評価基準		着眼点	評価		総合点
	必要性	①事業目的の妥当性	地域や市民にとって役立つ事業内容となっているか。	○	4	26
		②行政関与の必要性	民間に委ねることなく行政が関与する必要があるか。	○	4	
	有効性	③事業内容の妥当性	地域や市民の中に意識･行動･利便性など何らかの変化を生み出せているか。	○	4	
		④政策効果の有効性	地域や市民の中に生まれた変化が当事者だけでなく周りの地域や市民にも影響を与えているか。	○	4	
	効率性	⑤事業経費の妥当性	投入した事業費に見合う成果が得られているか。	○	4	
		⑥政策効果の効率性	政策効果を高めるために部署や組織にとらわれない政策･組織間連携を試みているか。	△	2	
	公平性	⑦受益･費用負担の妥当性	事業が影響を与える地域や市民の受益･費用負担を適切に想定できているか。	△	2	
		⑧受益者負担の公平性	事業から生じた利益･費用は関係者間で公平に分配･負担されているか。	△	2	

改善				
	改善の必要性	「効率性」の観点から改善が必要	今後の方向性	継続
	担当者意見	評価理由 地域包括ケアシステムの構築に向け、地域の保健･医療･福祉を担う機関と連携強化を目的とした意見交換等をこれまで積極的に行ってきたが、令和2年度以降、コロナ感染拡大の影響もあり糖尿病診療を考える会は開催ができていないが、別の形として表敬訪問の実施や近隣施設との情報交換会を開催している。 解決すべき課題と改善策 コロナ禍前と同様に、地域の保健、医療及び福祉を担う機関と、定期的に意見交換等を行う場を持ち、地域包括ケアシステムの維持及び拡充に向けた協働を推進していく。		
	所属長意見	事業の位置付けを踏まえた総括 令和6年度診療報酬改正に伴い、より医療と介護の連携を強化するための施策打ち出され市民病院においても近隣の介護福祉施設等との定期的な入所者情報の共有化を図るなど新たな取組が開始された。 このようなことをきっかっけに地域包括ケアシステムの充実に寄与していきたい。		

第2次さぬき市総合計画後期基本計画実施計画／事務事業評価調書

担当課	市民病院経営企画課

事業名	病院事業会計③（人的資源の確保関係）

施策体系	基本目標	基本施策	主要施策
	Ⅲ.健全な心身と思いやりを育むまち	19 地域医療の充実	(3)人的資源の安定的な確保と活用

事業の内容（P）

事業概要	医療の質を維持･向上する上で欠かせないのが専門的な知識を有する人材の安定的な確保と基本理念に基づいた活用である。特に、医師の確保は、病院運営の重要な鍵となることから、適正人員を獲得するため、近隣の大学病院に対する積極的な働き掛けや民間企業からの斡旋、ホームページ等広報媒体を利用した公募活動に努める。 ※事業費再掲	対象	近隣の大学病院等
		手段	医師派遣に対する積極的な働き掛けや寄付講座の開設
		目的	医師をはじめとする医療スタッフの安定的な確保

会計	0	病院事業会計	款			項			目		

事業費

年度		財源内訳(千円) 国県支出金	地方債	その他	一般財源	事業費計(千円)
R5	計画額	1,695	215,300	4,993,736	540,342	5,751,073
	当初予算額	1,695	215,300	4,993,736	540,342	5,751,073
	決算額	202,695	214,000	4,335,635	533,320	5,285,650

具体的取組内容

計画	･近隣大学への医師派遣に対する積極的な働き掛け ･ホームページ等広報媒体による医師公募
実績	関連大学への医師派遣に対する積極的な働き掛けにより、産婦人科医師1名を確保している。

R6						
	計画額	1,695	65,000	5,018,479	527,661	5,612,835
	当初予算額	1,695	218,900	5,097,202	528,328	5,846,125
	決算額	2,778	114,300	4,799,028	527,153	5,443,259

具体的取組内容

計画	･近隣大学への医師派遣に対する積極的な働き掛け ･ホームページ等広報媒体による医師公募
実績	関連大学への医師派遣に対する積極的な働き掛けにより、産婦人科医師1名を維持し、内科医師2名を確保している。 また、非常勤医師として総合診療科、腫瘍内科等の診療に優れた医師の新たなを派遣もいただいた。

R7						
	計画額	1,695	65,000	5,100,132	458,078	5,624,905
	当初予算額	1,622	496,300	5,351,421	499,158	6,348,501
	決算額	50,621	371,800	4,685,269	505,197	5,612,887

具体的取組内容

計画	･近隣大学への医師派遣に対する積極的な働き掛け ･ホームページ等広報媒体による医師公募
実績	関連大学への医師派遣に対する積極的な働き掛けにより、常勤医師として産婦人科医師1名を維持し、非常勤医師として総合診療科、腫瘍内科等の診療に優れた医師も継続して派遣いただいている。

R8						
	計画額	1,695	65,000	5,101,796	466,332	5,634,823
	当初予算額	1,622	845,500	4,973,024	710,246	6,530,392
	決算額					0

具体的取組内容

計画	･近隣大学への医師派遣に対する積極的な働き掛け ･ホームページ等広報媒体による医師公募
実績	

上段:計画値　下段:実績値

指標データ(D)		総合計画目標指標	指標種別	単位	R5	R6	R7	R8
	1	入院患者数	成果	人	51,240	51,100	51,100	51,100
					38,864	41,318	44,663	
	2	入院患者率(市民)	成果	%	72.2	72.2	72.2	72.2
					70.2	69.9	68.6	
	3	外来患者数	成果	人	117,855	117,855	117,370	116,885
					110,577	109,529	105,596	
	4	外来患者率(市民)	成果	%	70.5	70.5	70.5	70.5
					69.8	69.2	70.3	
	5	患者紹介率	成果	%	26.6	26.6	26.6	26.6
					26.6	27.7	33.2	
	総合計画目標指標以外の指標 (上段:指標名　下段:測定方法及び設定の考え方)		指標種別	単位	R5	R6	R7	R8
	1	産婦人科医を確保するために連携の強化を図る大学数	活動	校	1	1	1	1
		近隣の大学数			1	1	1	
	2	産婦人科医数	成果	人	1	1	1	1
		分べんを取り扱うに当たり必要な最低医師数			1	1	1	

事業の評価	評価基準		着眼点	評価		総合点
	必要性	①事業目的の妥当性	地域や市民にとって役立つ事業内容となっているか。	○	4	32
		②行政関与の必要性	民間に委ねることなく行政が関与する必要があるか。	○	4	
	有効性	③事業内容の妥当性	地域や市民の中に意識・行動・利便性など何らかの変化を生み出せているか。	○	4	
		④政策効果の有効性	地域や市民の中に生まれた変化が当事者だけでなく周りの地域や市民にも影響を与えているか。	○	4	
	効率性	⑤事業経費の妥当性	投入した事業費に見合う成果が得られているか。	○	4	
		⑥政策効果の効率性	政策効果を高めるために部署や組織にとらわれない政策・組織間連携を試みているか。	○	4	
	公平性	⑦受益・費用負担の妥当性	事業が影響を与える地域や市民の受益・費用負担を適切に想定できているか。	○	4	
		⑧受益者負担の公平性	事業から生じた利益・費用は関係者間で公平に分配・負担されているか。	○	4	

改善				
	改善の必要性	「公平性」の観点から改善が必要	今後の方向性	継続
	担当者意見	評価理由 慢性的な医師不足に伴い、政策的医療の継続的な提供が苦慮される中で、前年度に引き続き、常勤の産婦人科医を年間を通して確保することができ、入院、外来を問わず、一定の医療提供が行えた。また、助産師の減少に伴い、院内助産から医師主導型の分娩となったが、継続して分娩を取り扱うことができた。 解決すべき課題と改善策 地域偏在や特定の診療科における医師不足は未だ解消されておらず、今後も安定して医師を確保することが困難であることに変わりはないが、引き続き、近隣の大学病院との連携強化に努める必要がある。		
	所属長意見	事業の位置付けを踏まえた総括 地域の医師については、働き方改革といった新たな制度の導入とともに、地域偏在や研修医制度のあり方によって、今後も確保が困難な状況が継続することが想定されるが、近隣の大学病院や自治医科大学等と密に連携を図りながら安定した医師確保に努めたいと考える。		

第2次さぬき市総合計画後期基本計画実施計画／事務事業評価調書

担当課	市民病院経営企画課

事業名	病院事業会計④（地域に開かれた病院関係）

施策体系	基本目標	基本施策	主要施策
	Ⅲ.健全な心身と思いやりを育むまち	19 地域医療の充実	(4)地域に開かれた病院づくり

事業の内容（P　）

事業概要			対象	地域住民
	地域住民への健康に関する啓発活動等の一環として実施している市民公開講座や健康出前講座、和やかな雰囲気で市民病院の有する医療資源や医療機能を紹介する病院フェスティバルを通じて、市民病院が市民に親しまれ、安心して医療を享受できる「開かれた病院」となるよう努める。　※事業費再掲		手段	健康講座等の実施
			目的	地域に根ざした医療の提供

会計	0	病院事業会計	款		項		目	

事業費

年度		財源内訳(千円) 国県支出金	地方債	その他	一般財源	事業費計(千円)
R5	計画額	1,695	215,300	4,993,736	540,342	5,751,073
	当初予算額	1,695	215,300	4,993,736	540,342	5,751,073
	決算額	202,695	214,000	4,335,635	533,320	5,285,650

具体的取組内容

計画	・市民公開講座や健康出前講座の開催 ・地域住民の健康に関する啓発活動の実施
実績	市民公開講座、健康出前講座及びさぬき市民病院フェスティバルについては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により開催中止

R6	計画額	1,695	65,000	5,018,479	527,661	5,612,835
	当初予算額	1,695	218,900	5,097,202	528,328	5,846,125
	決算額	2,778	114,300	4,799,028	527,153	5,443,259

具体的取組内容

計画	・市民公開講座や健康出前講座の開催 ・さぬき市民病院フェスティバルの開催 ・地域住民の健康に関する啓発活動の実施
実績	・市民公開講座の開催 開催回数：1回、参加人数：12人 ・健康出前講座の開催 開催回数：15回、参加人数：737人 ・さぬき市民病院フェスティバル開催中止

R7	計画額	1,695	65,000	5,100,132	458,078	5,624,905
	当初予算額	1,622	496,300	5,351,421	499,158	6,348,501
	決算額	50,621	371,800	4,685,269	505,197	5,612,887

具体的取組内容

計画	・市民公開講座や健康出前講座の開催 ・さぬき市民病院フェスティバルの開催 ・地域住民の健康に関する啓発活動の実施
実績	・市民公開講座の開催 開催回数：1回、参加人数：20人 ・健康出前講座の開催 開催回数：12回、参加人数：303人 ・さぬき市民病院祭の開催 開催（6年ぶり）　参加人数：259人

R8	計画額	1,695	65,000	5,101,796	466,332	5,634,823
	当初予算額	1,622	845,500	4,973,024	710,246	6,530,392
	決算額					0

具体的取組内容

計画	・市民公開講座や健康出前講座の開催 ・さぬき市民病院フェスティバルの開催 ・地域住民の健康に関する啓発活動の実施
実績	

上段:計画値　下段:実績値

指標データ(D)		総合計画目標指標	指標種別	単位	R5	R6	R7	R8
	1	入院患者数	成果	人	51,240	51,100	51,100	51,100
					38,864	41,318	44,663	
	2	入院患者率(市民)	成果	%	72.2	72.2	72.2	72.2
					70.2	69.9	68.6	
	3	外来患者数	成果	人	117,855	117,855	117,370	116,885
					110,577	109,529	105,596	
	4	外来患者率(市民)	成果	%	70.5	70.5	70.5	70.5
					69.8	69.2	70.3	
	5	患者紹介率	成果	%	26.6	26.6	26.6	26.6
					26.6	27.7	33.2	
	総合計画目標指標以外の指標 (上段:指標名　下段:測定方法及び設定の考え方)		指標種別	単位	R5	R6	R7	R8
	1	市民公開講座等の実施回数	活動	回	27	27	27	27
		市民公開講座及び健康出前講座の実施回数			0	16	13	
	2	市民公開講座等の延参加人数	成果	人	850	850	850	850
		市民公開講座及び健康出前講座の実施に伴って参加した延人数			0	749	582	

事業の評価	評価基準		着眼点	評価		総合点
	必要性	①事業目的の妥当性	地域や市民にとって役立つ事業内容となっているか。	○	4	30
		②行政関与の必要性	民間に委ねることなく行政が関与する必要があるか。	○	4	
	有効性	③事業内容の妥当性	地域や市民の中に意識･行動･利便性など何らかの変化を生み出せているか。	○	4	
		④政策効果の有効性	地域や市民の中に生まれた変化が当事者だけでなく周りの地域や市民にも影響を与えているか。	○	4	
	効率性	⑤事業経費の妥当性	投入した事業費に見合う成果が得られているか。	○	4	
		⑥政策効果の効率性	政策効果を高めるために部署や組織にとらわれない政策･組織間連携を試みているか。	○	4	
	公平性	⑦受益･費用負担の妥当性	事業が影響を与える地域や市民の受益･費用負担を適切に想定できているか。	○	4	
		⑧受益者負担の公平性	事業から生じた利益･費用は関係者間で公平に分配･負担されているか。	△	2	

改善				
	改善の必要性	「公平性」の観点から改善が必要	今後の方向性	継続
	担当者意見	評価理由 コロナ感染症感染拡大防止対策の一環として、R2年度から活動を休止していた市民公開講座及び健康出前講座を昨年度から再開し、地域住民の健康維持に貢献するとともに疾病予防に対する正しい知識の普及啓発活動に取り組むことが出来た。 また、今年度は6年ぶりの開催となった「さぬき市民病院祭」を開催し、市民の皆様にご来院いただいた。		
		解決すべき課題と改善策 これからも地域住民の健康啓発活動の一環となるよう市民公開講座、健康出前講座及び病院祭の開催を継続する。 併せて、さぬき市民病院祭も継続開催し、当院を地域住民をはじめ、多くの片に知っていただく一助としたいと考えている。		
	所属長意見	事業の位置付けを踏まえた総括 各種健康講座の活動については、コロナの終息に伴い、昨年度から開催を再開した。 健康に対する啓発活動とともに、開かれた病院を目指す観点から、この取組は重要であると認識しており、今後も住民ニーズに合わせながら活動を継続していきたいと考える。		

第2次さぬき市総合計画後期基本計画実施計画／事務事業評価調書

担当課	津田診療所

事業名	津田診療所事業

施策体系	基本目標	基本施策	主要施策
	Ⅲ.健全な心身と思いやりを育むまち	19 地域医療の充実	(5)診療所の継続的な運営

事業の内容（P）

事業概要											
	地域の身近な公立の1次医療機関として、さぬき市民病院等との連携を図りながら、より充実した医療を提供する。 保健活動や感染予防にも努め、地域に密着した診療所としての役割を担う。					対象	地域住民				
						手段	地域医療連携 充実した医療の提供（専門性を生かした診療）				
						目的	広域的な患者の確保及び診療所の健全で安定的な運用				
会計	52	津田診療所事業特別会計	款			項			目		

事業費

年度		財源内訳(千円) 国県支出金	地方債	その他	一般財源	事業費計(千円)
R5	計画額	0	0	113,484	2,016	115,500
	当初予算額	0	0	113,484	2,016	115,500
	決算額	0	0	97,248	10,493	107,741

R5 具体的取組内容

計画	実績
・地域に密着した診療所の運営及び施設の維持管理を継続する。 ・予防接種や健診などの保健活動や健康教室や糖尿病教室などの開催により健康啓発活動に努める。	コロナウイルス感染症が5類に変更になったが、抗原検査や予防接種に取り組み、地域住民の安全と安心に貢献した。 感染症の流行が小康状態になったことから健康教室を再開するとともに糖尿病教室を新たに開催した。

R6						
	計画額	0	0	110,000	2,016	112,016
	当初予算額	0	0	109,711	5,489	115,200
	決算額	0	0	102,571	11,894	114,465

R6 具体的取組内容

計画	実績
・地域に密着した診療所の運営及び施設の維持管理を継続する。 ・予防接種や健診などの保健活動や健康教室や糖尿病教室などの開催により健康啓発活動に努める。	・通常診療と並行して、有症状患者の抗原検査を今年度も継続することで、地域住民の安全安心に取り組んだ。 ・市民の健康づくり支援の一環として定期的に「健康教室」「糖尿病教室」を開催した。

R7						
	計画額	0	0	110,000	2,016	112,016
	当初予算額	0	0	97,691	14,209	111,900
	決算額	554	0	95,001	12,753	108,308

R7 具体的取組内容

計画	実績
・地域に密着した診療所の運営及び施設の維持管理を継続する。 ・予防接種や健診などの保健活動や健康教室や糖尿病教室などの開催により健康啓発活動に努める。	地域の市民に寄り添った診療所の運営を継続するとともに、特定健診や予防接種などの公衆衛生活動にも積極的に取り組んだ。

R8						
	計画額	0	0	110,000	2,016	112,016
	当初予算額	0	0	98,075	9,619	107,694
	決算額					0

R8 具体的取組内容

計画	実績
・地域に密着した診療所の運営及び施設の維持管理を継続する。 ・予防接種や健診などの保健活動や健康教室や糖尿病教室などの開催により健康啓発活動に努める。	

第2次さぬき市総合計画後期基本計画実施計画／事務事業評価調書

担当課	津田診療所

事業名	津田診療所事業

施策体系	基本目標	基本施策	主要施策
	Ⅲ.健全な心身と思いやりを育むまち	19 地域医療の充実	(5)診療所の継続的な運営

上段:計画値　下段:実績値

指標データ(D)		総合計画目標指標	指標種別	単位	R5	R6	R7	R8
	1							
	2							
		総合計画目標指標以外の指標 (上段:指標名　下段:測定方法及び設定の考え方)	指標種別	単位	R5	R6	R7	R8
	1	延患者数	成果	人	12,700	12,700	12,500	12,500
		診療所を利用する患者数			11,998	11,203	10,269	
	2	診療報酬	成果	千円	113,038	109,000	109,000	109,000
		診療所の収入(診療報酬＋予防接種＋受託事業)			96,406	93,532	94,503	

事業の評価	評価基準		着眼点	評価		総合点
	必要性	①事業目的の妥当性	地域や市民にとって役立つ事業内容となっているか。	○	4	30
		②行政関与の必要性	民間に委ねることなく行政が関与する必要があるか。	○	4	
	有効性	③事業内容の妥当性	地域や市民の中に意識･行動･利便性など何らかの変化を生み出せているか。	○	4	
		④政策効果の有効性	地域や市民の中に生まれた変化が当事者だけでなく周りの地域や市民にも影響を与えているか。	○	4	
	効率性	⑤事業経費の妥当性	投入した事業費に見合う成果が得られているか。	△	2	
		⑥政策効果の効率性	政策効果を高めるために部署や組織にとらわれない政策･組織間連携を試みているか。	○	4	
	公平性	⑦受益･費用負担の妥当性	事業が影響を与える地域や市民の受益･費用負担を適切に想定できているか。	○	4	
		⑧受益者負担の公平性	事業から生じた利益･費用は関係者間で公平に分配･負担されているか。	○	4	

改善	改善の必要性	「効率性」の観点から改善が必要	今後の方向性	継続
	担当者意見	評価理由 内科、整形外科の患者数が減少傾向にあることから、診療所が持つ本来の診療機能を十分に発揮しているとはいえない。 解決すべき課題と改善策 患者数減少の要因には、地域の人口減少の影響もあるが、健康診断や予防接種など地域の診療所として提供できる医療サービスを充実させることで地域住民の認知度を上げる。		
	所属長意見	事業の位置付けを踏まえた総括 専門である糖尿病や循環器疾患などの診療に加えて、地域の高齢者の慢性的な疾患の診療も行うなど、地域の住民に寄り添った診療を提供している。		